

2010

短期留学

ハンドブック



MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

短期留学への参加を希望する皆さんへ

(よくお読みください)

国際交流センターでは夏休みや春休み期間を利用した、短期留学を主催しています。留学先は本学協定校や本学認定の語学学校ですので、いずれも質の高いプログラムが提供されています。

本学短期留学は、これらのプログラムに参加し、所定の課題を修めることにより該当する科目の単位が与えられます。ただし参加にあたっては、対象学年、出願資格(取得単位数・成績)など一定の条件を満たす必要があります。各プログラムの内容を確認するだけでなく、28～29ページの出願資格等一覧をよく確認してください。

願書一式は国際交流センターホームページ(以下URL参照)からダウンロードできます。出願期間・出願書類については31ページを確認してください。

国際交流センターホームページ http://www.meijigakuin.ac.jp/office/cice/short_outline.html

出願にあたっては、以下の注意点をお守りください。

- ①自分だけで参加を決めず、必ず事前に保証人の方に相談の上、許可を得てから出願してください。保証人の署名捺印も必要となります。
- ②原則として自己理由による出願取り下げや参加のキャンセルは出来ません。金銭面などについてよく考えてから出願しましょう。
- ③参加希望者数が各プログラム概要に記載されている(4ページ～25ページ)の催行人数に満たない場合、やむを得ずそのプログラムを中止、もしくはプログラム内容を一部変更する場合があります。
- ④夏季プログラムのうち英語圏(アメリカ(ホープ)、オランダ(マーストリヒト)、イギリス(イーストアングリア09生のみ))、春季プログラムの英語圏(イギリス(レスター)、オーストラリア(シドニー))は人気があるため、必ずしも希望のプログラムに参加できる訳ではありません。どうしてもアメリカに行きたい、オランダに行きたいという場合以外は、第二希望(・第三希望)を検討することをお勧めします。第二(・第三希望)をする場合は、願書の所定欄に記入してください。

明学共通科目 ドイツ語・韓国語・フランス語・スペイン語・中国語特別研究について

(注意事項!!)

国際交流センター主催の短期留学を希望する皆さんを対象に、教養教育センターは外国語の特別なレッスン科目(〇〇語特別研究)と文化理解のための指導科目(リサーチ&プレゼンテーション)を提供しています。

留学先のクラス分けで、上のレベルに行って一歩進んだ授業を受けたい人や、現地での生活で困らないように準備をしておきたい人には良い講座です。

ただし**短期留学の出願に〇〇語特別研究を履修する必要はありません**。あくまで任意です。

ドイツ語、韓国語、フランス語、中国語特別研究は原則1年次秋学期、スペイン語は2年次春学期に履修登録していただく必要があります。それ以外のケースは個別に**教養教育センター**に相談してください。

また、科目の詳細についても**教養教育センター**にご相談ください。

問合せ先：教養教育センター共同研究室(横浜校舎1号館3階)

国際交流センター

2010年度短期留学ハンドブック参照ページ早見表

実施時期	大学名 (国名)	実施言語	期間	対象学年	プログラム概要	出願資格
夏季	ホープカレッジ (アメリカ)	英語	29日間	09, 08, 07 年度生	P.4~5	P.28
	マーストリヒト (オランダ)		28日間	09, 08, 07 年度生	P.6~7	
	イーストアングリア (イギリス)		約30日間	09年度生	P.8~9	
	ハンブルク (ドイツ)	ドイツ語	30日間	09, 08, 07 年度生	P.10~11	
	パリカトリック学院 付属ILCF (フランス)	フランス語	28日間	09, 08, 07 年度生	P.12~13	
	崇賞 ^{モンシル} (韓国)	韓国語・日本語	22日間	09, 08, 07 年度生	P.14~15	
	タマサート (タイ)	タイ語・英語 日本語	30日間	09, 08, 07 年度生	P.16~17	
	北京 (中国)	中国語・日本語	15日間	09, 08, 07 年度生	P.18~19	
春季	コミーリャス (スペイン)	スペイン語 英語	30日間	09, 08 年度生	P.20~21	P.29
	レスター (イギリス)	英語	24日間	10, 09, 08 年度生	P.22~23	
	シドニー (オーストラリア)		23日間	10, 09, 08 年度生	P.24~25	
共通	単位認定 履修登録	▶	P.30			
	出願から 合格発表まで 出願書類	▶	P.31			
	出願から 帰国までの 流れ	▶	P.32~33			
	短期留学FAQ	▶	P.34			

プログラム概要

夏季短期留学は4月中旬、春季短期留学は10月下旬頃に説明会を予定しています。
日程が決まり次第、ポートヘボンにて告知いたします。

アメリカ：ホープカレッジ

2010年8月16日(月)～9月13日(月)：29日間

- ・英語によるアメリカ事情講義
- ・正規授業の「比較文化」のクラスに出席！
- ・ホープカレッジ教員の個別指導の下で日米比較の研究&プレゼンテーションを実施
- ・シカゴへのフィールドトリップとニューヨークへのIndependent Trip！
- ・日程後半はホープの学生とルームシェア

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

15人（最少催行人数12人）

費用概算

約47万円（09年度実績）

（航空運賃・授業料・ニューヨーク旅行費用・各種フィールドトリップ費用・自由旅行費用・保険料・寮費〔3食付〕等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※ニューヨークIndependent Tripの現地交通費・食費はすべて自己負担。

徴収方法：6月上旬に15万円、7月上旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

英語を学ぶのではなく、英語で学ぶアメリカ研究。従って、十分な英語力を要する。本プログラムは明学生向けの特別集中プログラム。

大学はシカゴから車で約3時間のミシガン湖畔の町ホランドにあるプロテスタント系リベラルアーツの私立大学。ホランドの町自体が大学を核として成立している。そのため学習環境だけでなく生活環境もアットホームな雰囲気にも包まれている。

提供されるプログラムは下記の通り、明学生向けのアメリカ事情特別講義と、ホープカレッジの正規授業（比較文化）受講及びオーラルリサーチプロジェクトの2パートで構成されている。大学の正規授業の受講は、“Encounter with Cultures”（比較文化論）に出席（4回程度）する形態となる。オーラルリサーチの個別指導は、比較文化論の担当教員が受け持つ。その他、第一週の週末に実施されるシカゴへのフィールドトリップ、第二週目のニューヨークIndependent Trip（4泊5日）、各種フィールドトリップ、一般家庭へのホームビジットなど多彩なプログラムが組み込まれている。成績は、オーラルリサーチの担当教員が評価した結果に基づく。

Lecture I / II

アメリカ事情特別講義では、アメリカの政治、地方政治、外交、民族問題、宗教、多文化社会、アメリカの現代社会など多岐に渡り、先方の教員によって英語での講義が行われる。

Attending regular classes/Oral Research Project

日米の比較研究。出願時に各自比較するテーマを設定。合格後渡航までの間に文献収集、アンケート原稿作成、日本でのアンケート実施。（途中、国際交流センター長のアドバイスを受ける。）現地では正規授業（Encounter with Cultures：比較文化）の担当教員が個別指導を行う。教員の指導の下、現地での文献収集・調査、現地学生へのインタビューの実施、プレゼンテーション準備を

行い、最終的に約10分間のプレゼンテーションを行う。

また、正規授業のクラスの学生1名がバディとして割り当てられ、学業やリサーチのサポートをしてもらえる。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。(引率者なし。各自手配は不可)

生活について

第1～第2週 (ホープカレッジの新学期開始前)：宿泊は大学寮。全員が同じ寮で過ごす。

第3～第4週 (新学期開始以降)：ホープ学生とルームシェアをし、寮またはコテージに滞在。

※いずれも、食事は3食とも敷地内のカフェテリアでとる。

事前研修

事前研修はない。

ただし、オーラルリサーチのテーマ設定と事前調査方法、事前調査の進捗状況について国際交流センター長による指導がある予定。

参考

ホープカレッジのホームページ <http://www.hope.edu/>

参加者の声

私がこのプログラムに応募する決意をしたのは、今から約1年ほど前でした。ホープのプログラムから帰ってきた友達が一回りも二回りも成長した姿を見て、私も絶対ホープに行きたいと思ったのです。ホープでの生活を有意義にしたいと考え、英語に慣れるためにUC生のバディを始めました。ホープのプログラムは一ヶ月だけでしたが、このプログラムのおかげで、私はたくさんの事に挑戦するきっかけをいただきました。

(国際学科 3年)

実際にアメリカの学生の生活を経験できてとても良かったです。特にルームメイトと過ごした後半2週間は絶対に一生忘れたくない思い出です。英語が思ったように話せなくて悔しい思いをしたり、異文化を肌で感じたりと、楽しいだけではなくいろんなことを考え、吸収した1カ月でした。

(英文学科 2年)

ホープでは、日本では絶対に経験できないようなことをいろいろ体験することができて、本当に成長することができた。そして一生の友達をたくさん作ることができた。彼らと会話しているときにどう伝えていいかわからないときも多く、自分の英語に自信がなくなり本当に落ち込んだこともあったが、彼らも温かく私にいろいろ教えてくれて、あきらめるのではなく一生懸命伝えようとする思いが大切なのだと感じた。アメリカに着いたとき、日本でもっと英語を勉強しておけばよかったと後悔したこともあったが、着いてから後悔しても全く意味がないので、アメリカに着いたら自分の英語に自信をもって、恐れずに堂々と話すことが大切だと思う。今回このプログラムの参加できてよかった!!!

(英文学科 2年)

オランダ：マーストリヒト大学

2010年8月3日(火)～8月30日(月)：28日間

※当該プログラムは本学国際交流センターが主催しますが、派遣手続き全般は株式会社JTB法人東京教育旅行東京東支店が業務を代行します

- ・ヨーロッパの国々をテーマにし実践的な英語を身につけることのできるプログラム
- ・英語によるヨーロッパの文化・芸術・歴史の講義はおもしろいと毎年好評。芸術の授業の一環で美術館等を巡るフィールドトリップあり
- ・異文化間コミュニケーションについての参加型クラスは大変好評
- ・立地のよさから、週末は近接のヨーロッパ諸国への自由旅行にも便利
- ・プログラム最後の4日間は集大成としてパリへのIndependent Trip !!

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

24人（最少催行人数12人）

費用概算

約45万円（09年度実績）

（航空運賃・授業料・保険料・フィールドトリップ費用・寮費等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

徴収方法：6月上旬に15万円、7月上旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

マーストリヒト大学はオランダ南の国境（ドイツ・ベルギーに接している）に位置し、大学の建物は町中に点在している。

本プログラムは明学生向けの特別集中プログラム。

ヨーロッパの中心に位置し、国民のほとんどがネイティブと変わらない英語を話すオランダで、ヨーロッパに関する広範な教養を身につけながら、英語の運用能力を高めることを目指す。

以下の3種類の講義で構成されている。

English Language and European Culture

「英語学習とヨーロッパ文化」の講義では、英会話と英作文の訓練をする。グループに分かれ、自分の専攻に合わせて、ヨーロッパ諸国の芸術、文化、および企業文化等について研究・発表する。それらの作業の過程で、英文の構成力・作文力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とし、同時にヨーロッパ文化への知識を深めることも目的としている。授業の評価は、会話力、課題や授業に対する積極的な姿勢、プレゼンテーション、小論文に基づき行われる。

European Culture: History and Art

「ヨーロッパ文化：歴史と芸術」の講義では、歴史と芸術に関するテーマを中心に、ヨーロッパ文化を紹介する。ヨーロッパという概念の歴史、言語と日常文化の多様性、民主主義の重要性および世界におけるヨーロッパの位置付けについて学習する。また、芸術の授業の一環として美術館を巡るフィールドトリップがある。

Intercultural Communication Seminar

日本とヨーロッパの文化の違いについて理解し、学校や社会においてヨーロッパ圏の人々とコ

コミュニケーションする上で、それらの違いにどのように対応していくかを学ぶ。プログラム初頭に開講されるため、その後のマーストリヒトでの生活やヨーロッパ各地への旅行に際してのガイダンスとしての役割も果たす。

週末を利用し、国境に位置する地の利を活かしたヨーロッパ各国への自由旅行（費用自己負担）も可能。（また、プログラム最後の4日間は、ヨーロッパ研究の集大成としてパリへのIndependent Tripがある。）

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復ならびにIndependent Tripの移動は、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

宿泊は大学寮。基本的に2人1部屋のルームシェア（ルームメイトは明学生）。寮から授業が行なわれる建物まではバスか徒歩で通う。マーストリヒト大学は夏期休暇中なので、現地学生との交流の機会は設けられていないが、他国からの留学生とは寮生活において交流が期待できる。各部屋にキッチンがあるため、食事は自炊。トイレ・シャワーは共用。

事前研修

6月～7月に、ヨーロッパの歴史、西洋美術についての事前研修を実施予定。

参考

マーストリヒト大学Center for European Studiesのホームページ <http://www.ces.unimaas.nl/>

参加者の声

とても充実した毎日でした。いろいろな面で強くなれたと思います。自分が今まで考えていたヨーロッパや絵画、彫刻の歴史、たくさんの建築物を自分の目で見てヨーロッパに対する知識が増えました。ヨーロッパの今までのイメージも誤解があった部分もあり、社会事情や生活も知る事が出来ました。フィールドトリップでも、たくさんの外国の人達と交流する機会が多く、有名な絵画などを見て感動する事も出来ました。大学の通学途中でも多くのオランダの発見があり、勉強も意欲的に取り組む事が出来ました。ゲストハウスでの生活も、同じ学生同士で協力し合いながら、楽しく生活する事が出来ました。自分を見つめなおし、感化されることが毎日たくさんあり早くて中身の濃い一ヶ月でした。この様な体験が出来て本当に良かったです。有難うございました。

（英文学科 2年）

プログラム全体としては本当に充実していると思います。英語力の向上もさる事ながら、それ以上に自立心であったり、自分で何かをする事であったり、自分の考えをしっかりと持つ事、自分でそれを伝えようとする事が求められていると感じました。それは授業の中であったり、週末旅行であったり日常生活であったりと様々な局面ですが、このプログラムに参加して良かったという思いはとても強いです。

私は高3の時に受験科目として世界史を選択した時からヨーロッパの歴史と文化にとっても興味を持っていたのですがそれと同時に現在、世界が抱える問題に対しても非常に強い関心を抱いています。個人的にはその様な人に強くお勧めしたいです。私自身今までは全く見えてこなかった新しい世界の見方が生まれました。問題提起された事に対して自分なりの解決方法などを考えようとする事が、今出来ているのでこれから勉強の上で是非活かしていきたいと考えています。この1ヶ月間、様々な事を考え勉強して向上心を持ち続けられたのを、そこで終わりにするのではなく自分の為にもずっと頑張り続けよう！と思える期間でした。是非もう一度行く事の出来る機会があったら参加したいです。

（社会学科 2年）

イギリス：イーストアングリア大学

2010年8月3日（火）～9月初旬：約30日間

※当該プログラムは本学国際交流センターが主催しますが、派遣手続き全般は株式会社JTB法人東京教育旅行東京東支店が業務を代行します

- ・イギリス文化を題材に生きた英語を身につけられるプログラム
- ・イギリスの一般家庭へのホームステイ！！
- ・ケンブリッジやオックスフォードへの豊富なフィールドトリップ

参加対象学年

09年度生

募集予定人数

36人（最少催行人数24人）

費用概算

約45万円（09年度実績）

（航空運賃・授業料・保険料・フィールドトリップ・ホームステイ費等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※寮滞在時の食費等及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

徴収方法：6月上旬に15万円、7月上旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

大学のあるNorwich（ノーリッチ）はロンドンから車で約3時間半のノーフォーク地方にある1000年の歴史を持つ町。本プログラムは明学生向けの特別集中プログラムで、コミュニケーションツールとしての英語を学ぶ様々な授業と、フィールドトリップやイギリスの文化・歴史についての英語による講義、リサーチプロジェクト（プレゼンテーションあり）、1000words essayへの挑戦など、多様な内容が盛り込まれ、イギリス文化や社会に触れることを通じ、生きた英語を身につけることを目的としている。

英語の授業の大きな枠組みとしては、Speaking、Listening、Academic Writing、Integrated Skillsの四つの要素で構成されている。課題は毎年大変多く出され、フィールドトリップやイベントと併せてかなりスケジュールはタイト。意欲を持って臨む必要がある。

フィールドトリップでは、ロンドンの史跡・教会やオックスフォード、ケンブリッジ等を訪ねる予定。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配不可）

生活について

期間中およそ2週間を大学の寮で過ごし、あとの2週間をイギリスの一般家庭にホームステイする。

寮は個室でバス・トイレがそれぞれに部屋についている。学生食堂もあるが、キッチンも各階に共有でついているので、自炊も可能。夏期休暇中なので、現地学生との交流の機会は設けられてい

ないが、他国からの留学生とは寮生活において交流が期待できる。ホームステイ期間中、原則として食事はすべてホストファミリーから提供される。

事前研修

事前研修は実施しない。

参考

イーストアングリア大学のホームページ <http://www.uea.ac.uk/>

参加者の声

最初の2週間が寮生活でグループの皆と買出しに行ったり料理をしたりしたので、ここで仲が一気に深まったと思います。皆がみんな友達になれて楽しみ、盛り上がったプログラムだと思います。もちろん授業を通して英語を勉強しましたが、それだけではなく店、駅、旅行先、ホームステイ先やバスなど生活のあらゆる面で、自分から英語を使わなければならないという環境の中に居ることによっても、良い英語の勉強が出来たと思いました。学校が全てを決め、それ通りに何でもやるのではなく、適度な自由さを私たちに与えてくれたからこそその事だったと思います。

(英文学科 2年)

この一ヶ月はたくさんのところへ行き、一日一日が濃かったのでとても長く感じられました。特にホストファミリーと過ごした日々が一番印象深いです。最初は緊張して何をしゃべっていいのかわからなかった僕に、ホストファザーが「Here is your home, Relax」と言ってくれたのが何より嬉しかったです。また3人のやんちゃな子供が居て一緒に遊んだりしていると、自分も本当にこの家族なのではないかと思えるくらい刺激的で楽しい日々を送る事が出来た。ただ自分の英語力の弱さを痛感した1ヶ月でもあったので、また“My home”に戻った時には何でも話せる様に、初めて向上心を持って英語を学びたいと思いました。

(心理学科 2年)

あっという間に1ヶ月が終わりました。最初、この留学にダメ元で応募したので、受かってから実際に行くまで、本当に本当に不安でした。でも実際に行ってみて本当に良かったです。何もかもが新鮮で、また毎日充実したプログラムだったので寂しく思う時間ありませんでした。むしろ楽しい思い出しか残っていません。プレゼンも1000wordsエッセイもその時はきつかったけど、自分なりに必死でやっていたと思います。ホームステイもとても優しいファミリーと、他の国からの留学生もいて英語で話す練習になりました。このホームステイを機にまた自分でホームステイをしたい気持ちになりました。この1ヶ月、自分の中で色々勉強になったり反省点があったり、課題を見つけたり収穫の多い1ヶ月でした。今回の経験を活かして今後の勉強も頑張っていきたいです。有難うございました。

(国際学科 2年)

ドイツ：ハンブルク大学

2010年8月3日(火)～9月1日(水)：30日間

- ・長年の研究に基づいた、特別ドイツ語教育プログラム
- ・「実践的なドイツ語」に重点をおいた、ドイツ人教師による授業
- ・ドイツ人学生による学習と生活の両面における手厚いサポート
- ・クラスや寮には他大学、他の国からの留学生も滞在し交流が可能

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

約15人

費用概算

約43万円（09年度実績）

（航空運賃・授業料・フィールドトリップ費用・保険料・寮費等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

徴収方法：6月上旬に15万円、7月上旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

ハンブルク大学はドイツ第二の都市ハンブルクにある国内5番目に大きな高等教育機関。

本プログラムは、主にドイツ語によるコミュニケーション能力の向上を目的としており、会話を中心としたドイツ語の授業が中心。明学生向けのプログラムではなく、広島大学、大阪市立大学、福井大学など国内の各大学や、台湾・韓国・中国からの大学生も参加する合同プログラムとなる。

事前のプレイスメントテスト（クラス分けテスト）によってレベルに応じたクラス編成がなされるので、明学生が必ずしも全員同じクラスになるとは限らない。

滞在中は、生活・学習面のサポートとして、参加者2名に対してドイツ人学生1名（日本語可）がチューターとして割り当てられる（1週間ごとに変わる）。

授業内容は研究・工夫を重ねた大変質の高いものと定評がある。主にドイツ人教師による授業で構成され、初級クラスには通常のドイツ語授業の他に発音矯正クラスもある。その他、日本語での補講が1日1時間あり、文法やドイツ社会事情・文化を学ぶことができる。また本プログラム最大の特徴として、毎日2時間チューターによる補習授業（文法・単語・会話ほか）がある。ドイツ人学生との交流と授業の復習が結びついているため、その日授業で習ったことを実践を交えて楽しく効果的に身につけることができる。

日々の授業以外にもイベントやリューベック等へのフィールドトリップが用意されている。週末の休日のうち、2日間はフィールドトリップが予定されているが、予定のない休日はベルリンやケルンなどへの自由旅行が可能（旅費は自己負担）。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

ハンブルク大学の学生寮に滞在し、居室は一人部屋。ただしキッチン、シャワー、トイレは共有となる。食事は自炊。寮は街中に複数あり、どの寮に振り分けられるかは現地到着時に判明する。振り分けられた寮の設備、周辺案内等の説明は現地到着の翌日に行われる予定。

いずれの寮からも大学へはバスや地下鉄、路面電車などの公共交通機関を使って通学する。通学のためにハンブルク市内の全交通機関共通のパスが支給される。

事前研修

6月～7月に約2回、基本的な日常会話や生活で役に立つ単語、言い回しなどについて復習する予定。

参考

ハンブルク大学のホームページ (参考)

http://www.uni-hamburg.de/index_e.html

ハンブルク大学サマーコースのホームページ

http://www.aai.uni-hamburg.de/summerschool/index_jp.html

参加者の声

プログラム自体は何も文句はなく、特にドイツ人学生によるチューター制度はこれからも続けてほしいくらい良いものでした。ハンブルク大の宮崎先生も仰っていたことですが、「自立」と「自律」を身につけることが少なからずできる環境、他国の大学の学生や他大の学生と交流することで、視野を広げることができたこと、ヨーロッパの文化に触れることができたこと、ドイツでドイツ語を使って生活すること、また集中してドイツ語を勉強できること、日本という国を再発見できることなどを考えてみれば、このプログラムは本当に参加してよかったと言い切れると思っています。

(法律学科 2年生)

全体的によかった。日本人の友人もできた。日本では体験できないことができたり、様々な美しい建造物を見ることができた。非常に充実した1か月になった。参加してよかった。

(経済学科 2年)

1か月間があっという間だった。費用はかかるけれど、それに見合うだけの経験があった。生涯の財産になり得る経験ができてとてもよかった。

(法律学科 2年)

フランス：パリカトリック学院ILCF

2010年8月3日(火)～8月30日(月)：28日間

※当該プログラムは本学国際交流センターが主催しますが、運営及び派遣手続き全般は(株)グロリアツアーリストが実施いたします。参加申し込みの際は、『旅行条件趣旨 グロリアツアーリスト』も合わせて確認してください。

- ・パリ6区の学生街(カルチェ・ラタン)に位置し、文化遺産に囲まれた恵まれた立地
- ・話す・聞くの双方の理解力・表現力を養成する、質の高い集中講座
- ・世界60カ国からの留学生と共にフランス語を学ぶチャンス
- ・モンパルナスのアパートメントホテルに滞在し、パリジャン、パリジェンヌ気分!

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

20人

費用概算

約57万円(09年度実績)

(航空運賃・授業料・保険料・フィールドトリップ費用・宿舎費等)

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

徴収方法：5月下旬に15万円、6月中旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

パリ・カトリック学院は、パリの中心部(6区)の学生街(カルチェ・ラタン)の一角に位置する。サンジェルマン・デ・プレ、モンパルナス、サンシュルピス寺院、リュクサンブール公園に隣接し、パリでもひと際歴史的文化的な環境にあるといえる。1875年にパリカトリック大学として創立、その後パリカトリック学院と名前を改めた。国籍や人種を越え、純粋に学問を追求する場を提供するとの理念に基づき、どの学部も高い評価を得ている。

ILCFはパリカトリック学院付属の語学センターで、1948年以来外国人向けフランス語コースを開講しており、質の高さでは大変定評がある。45名の経験豊富なフランス語教育専門教師が在籍し、毎年、通年コースと夏季講座を合わせて60カ国、約2000人も留学生を受け入れている。

参加プログラムはILCFの提供する夏季集中フランス語講座で、話す・聞く双方の理解力・表現力を養成することを目的としている。本学学生だけのためのプログラムではなく、世界各国から参加者が集まるオープンコースであるため、留学生と肩を並べて学ぶこととなる。レベルチェックテストにより、参加者は入門から最上級まで5つのレベルのうち、各自のレベルに合ったクラスに振り分けられる。各クラス18人の少人数制クラスで、授業は月曜日から金曜日まで1日3時間(午前中のみ)が基本となるが、週1日だけ3時間のアトリエクラス(OralまたはEcrieのいずれかを選択)を履修する。初級までは基礎フランス語のトレーニング、中級以上は文明講座を取り入れフランス語の運用能力向上を目的としている。

フランス語講座だけではなく、ILCF主催の課外活動(セーヌ川クルーズ、パリ観光、フォンテーヌブロー宮殿他)にもオプションで参加できる。また週末は各自で自由旅行(費用はすべて自己負担)に出ることも可能。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。(引率者なし。各自手配は不可)

生活について

宿泊は大学から徒歩圏内のモンパルナスにあるアパートメントホテル (Residence Citadines) に滞在。基本的に2人1部屋のルームシェア (ルームメイトは明学生)。各部屋にキッチンがあるため食事は自炊となる。

事前研修

事前研修は実施しない。

参考

パリカトリック学院ILCFのホームページ <http://www.icp.fr/ilcf/>

参加者の声

授業は自分の勉強不足でついていくのが大変だったが、分からないところがあれば何度も説明してくれた。ペアワークが毎回あり、他の生徒とも交流を深めることができ、会話も前よりは上達することができたと思う。自炊生活も体験できて、自分にはとてもプラスになった。パリの街はとてもきれいで、お店もたくさんあって楽しめた。行く前はすごく不安になったけど、行って本当によかった。

(フランス文学科 2年)

ルームシェアだったから、お互いに刺激し合って頑張れた。身近に日本人がいたから一回もホームシックにならずに、学校も観光もとても楽しめた。はじめての異国生活だったから不安もあったが、一か月を通して自分なりにしっかり生活できたと思う。充実していた。私の中で一番大きかったのは人との出会いである。様々な言語が飛び交う中で、クラスのみennaと仲良くなれたのはすごくうれしかったし、自分に足りないものやこれからの課題も友達を通じて見えてきた気がした。

(フランス文学科 2年)

パリの生活は本当に充実していて、楽しいだけでなく毎日新たなことを学んでいく充実感がありました。学校もはじめは不安でしたが、レベルに合ったクラスだったので、分からないことがあっても質問し、解決することができました。午後のフリーの時間には、興味のあるところに訪れ、ゆっくりとした時間を過ごしました。フランスの家庭の味が楽しめなかったのは残念でしたが、外食もランチに行く程度ならそれほどお金もかからず、おいしかったのでおすすめです。パリの文化や歴史を学び、体験するにはちょうどよい時間だと思いました。本当に充実した短期留学でした。

(国際学科 3年)

※当該プログラムは本学国際交流センターが主催しますが、派遣手続き全般は国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部が業務を代行します。参加申し込みの際は、『CIEE研修手続きに関する条件書』も合わせて確認してください。

- ・初級・中級レベルの韓国語の学習
- ・座学授業のほか、多様な内容のフィールドトリップで韓国の文化、歴史、情勢を学習
- ・崇實大学生がバディとして日常生活を手厚くサポート

参加対象学年 09、08、07年度生

募集予定人数 約20人

費用概算 約11万円（09年度実績）

（航空運賃・保険料等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

※協定によりセミナー費・寮費は全額免除。

徴収方法：6月中旬に所定の口座へ振込。

プログラム概要

崇實大学校はキリスト教主義の大学。美しい山々を見渡すキャンパスは、ソウル中心街からやや南に位置する。

本プログラムは、明学生向けの特別集中プログラムで、日本語による韓国文化・歴史（伝統芸術の体験実習・韓国映画・韓国の政治経済等）についての講義、話す・聞く・書く力を中心とした韓国語学習（初級・中級別）とフィールドトリップ（38度線非武装地帯他）で構成されている。

滞在中は崇實大学校の学生が生活・学習面において手厚くサポートしてくれる。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

宿泊は大学近くのアパートメントに滞在予定。清潔で設備も整っている。基本的に2人1部屋のルームシェア（ルームメイトは明学生）。3～6人で共有するシャワー、トイレの他、キッチンもあるため食事は自炊が可能。プログラム期間中は崇實大学校の学生バディもケアしてくれるので、生活について何かと相談することが出来る。

参考

崇實大学校のホームページ <http://www.ssu.ac.kr/main.jsp>

事前研修

6月～7月に2回ほど、文法・発音、基本的な日常会話や生活で役に立つ単語、言い回しなどについて復習する予定。

参加者の声

この短期留学を通して、多くのことを学んだ。韓国語や韓国文化・伝統はもちろん、今後の日韓関係についても考える機会が多くあった。また、客観的に日本を見ることができ、日本の良い面や悪い面をとらえることもできた。3週間という短い期間であったが、多くの友人ができ、視野を広げることができたと感じる。今後の自分の人生に大きな影響を与えてくれる留学だったことは間違いないし、生きることの喜びを感じることができた。今回のこの留学が、また新たな第一歩につながればいいと思います。

(英文学科 2年)

私はこの留学を通して本当に沢山のことを韓国の学生から学びました。そして日本と韓国の文化の違いも多く感じました。韓国の学生は本当に情が深く、毎日毎日私たちのために色々なことをしてくれました。3週間という短い期間だったかもしれませんが、私たちにとっては今までで一番濃い3週間でありとても充実した夏休みとなりました。言葉も現地で生の韓国語を沢山吸収することができ、特に聞き取りに自信がつけました。そして言葉だけでなく戦争記念館、西大門刑務所訪問をとおしてバディから教えてもらった大切なことをしっかりと受け止め、私も家族や友達に伝えていきたいと思いました。これからもバディと私達の関係が明るい日韓関係につながればいいと強く感じました。

(国際経営学科 2年)

短期留学の3週間は本当にとっても充実していて、あっという間でした。韓国で生活する中で、地下鉄以外にもバスやタクシーなどの観光客には難しいといわれている交通機関を利用することができたことや、スーパーで生活用品を買うことも、旅行では味わうことができない経験だと思いました。私はこの留学で韓国語を話す力を向上させたいと思っていましたが、授業以外でもバディとできる限り長く一緒に過ごすことで多くの韓国語を聞くことで耳が韓国語に慣れたように感じ、また自分から韓国語を発することに対する不安感も薄れたように思いました、単語や文法も話す中でおおく身につけることができました。同じ大学生と話すことができるのは、留学で経験できる何より貴重なことだと思います。本当に参加することができて良かったです。

(法律学科 2年)

タイ：タマサート大学

2010年8月上旬～8月下旬：30日間

※当該プログラムは本学国際交流センターが主催しますが、派遣手続き全般は国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部が業務を代行します。参加申し込みの際は、『CIEE研修手続きに関する条件書』も合わせて確認してください。

- ・初級レベルのタイ語をマスター
- ・日本語またはわかりやすい英語で学ぶタイの社会、歴史、文化
- ・王宮、チェンマイ、アユタヤへの豊富なフィールドトリップ
- ・バディによる手厚いケア

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

15人（最少催行人数10人）

費用概算

約32万円（08年度実績：09年度は催行されなかったため、08年度実績を記載。）

（航空運賃・授業料・保険料・寮費・フィールドトリップ費用等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行の際の現地交通費は自己負担。

徴収方法：6月上旬に15万円、7月上旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

入門・初級レベルのタイ語と、タイ事情・タイ文化について学ぶプログラム。

タマサート大学は、タイの首都バンコクを中心部、王宮のすぐ側に位置し、チュラロンコン大学と並ぶ名門校の一つ。

本プログラムは本来明学生向けの特別集中プログラムだが、他大学生との合同となる可能性もある。内容は以下の通り。

Thai Society & Culture

Thai Art

Thai History

Thai Law

Thai Economy

} 英語による授業

Thai Language

：生活に必要なタイ語学習（日本語による講義）

その他、タイ事情・タイ文化の学習の一環として、王宮、アユタヤ、チェンマイへのフィールドトリップと、タイ農村部の村でのホームステイも予定されており、講義だけではなく実際に見聞してタイについての知識を深めることができる。また空いている週末は自由旅行も可能。但し、タイ国外および外務省危険指定地域への旅行は厳禁。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

宿舎は、キャンパス近くのカオサン通りにあるホテルを利用。基本的に2人1部屋のルームシェア（ルームメイトは明学生）。食事は自炊の設備がないため、多くは大学の学食か市場でとる（非

常に安価)。ホテルの周辺には手ごろな飲食店がある。ホテルから大学までは徒歩かバス。街中ではよほどタイ語が堪能でない限り英語でのコミュニケーションとなる。

また、タマサート大学で日本語を専攻している学生がバディとして、日常生活のサポート、現地での交流の橋渡しになるなど、公私にわたり手厚いケアをしてくれる。

事前研修

タイの社会事情についての講義（予定）

参考

タマサート大学のホームページ <http://www.interaffairs.tu.ac.th/>

参加者の声 ※09年度は催行されなかったため、08年度参加者の声になります。

自分にとっては初めての海外長期滞在で、最初わからないことがいくつもあり不安で仕方なかったが、事前研修やオリエンテーションで基礎的なことを学ぶことができたので、毎日特に不安になることも身の危険を感じることもなく、有意義に過ごすことができたように思う。もともと参加人数が10人と少数だったので、お互い親交を深めることができ、さらに、バディを通じて、タマサートの日本語学科の学生を始め他学部の学生まで仲の良い友達を何人も作ることができた。彼らの日本文学の宿題を手伝ったり、反対にタイ語の授業の課題を手伝ってもらったり、自由旅行に同行してもらったり、いろいろな所に遊びに連れ出してくれたり、忙しい授業の合間を縫って付き合ってくれて大変お世話になった。彼らの中には9月から日本の大学に留学をする学生もいて、日本のことをよく聞かれることがあった。そのときにうまく説明ができなかったり、日本独特の言い回しの説明ができなかったりすることが何度かあって、自分がいかに日本や日本語のことを理解していないかを実感させられた。また、タイ事情の授業やフィールドトリップ、毎日の生活を通して、日本にいても絶対に知ることができないようなタイという国の一面を見ることができた。偏った経済発展による格差社会や貧困など、これからの勉強に役立てることができる様々なことを見て聞くことができ大変良い経験になったと思う。ほとんど知らなかったタイという国についての理解を深めることができ、是非とももう一度訪れてみたい国になった。

（国際学科）

日本語学科があったことが、とても大きかったと思います。たくさんの学生と友達になれました。現在もメールで連絡を取り合っています。また、現地の学校のスタッフの方々がとても親切で本当に良くしてもらいました。しかし、ただ単に親切なだけではなく、我々に任せられるところは任せるというバランスも良かったと思います。また、滞在したゲストハウスがとても大学に近くて通学しやすかったり、友達と遊びに出掛ける時にも楽でした。私は明治学院大学の全学生にこのプログラムをお勧めします！

（政治学科）

今回タイについてはほとんど知らないまま行きましたが、先入観もなかったので、その分より楽しめたと思います。タイ人はオリエンテーションの際に聞いていた以上に親切な人たちでした。どこに行くにも一緒に付いて来てくれたので私たちも普通の旅行以上の体験をすることができ、とても有意義な1ヶ月を送ることができました。学習面では伝統のある大学で学ぶことができ、時には厳しくても、基本的には、楽しく本当に生徒のためになる学習を目指しているなあという印象を受けました。今回のこのプログラムでの留学は間違いなく私にとってこれまでで一番貴重な体験となりました。

（芸術学科）

中国：北京大学

2010年8月26日（木）～9月9日（木）：15日間

- ・中国語、中国の政治・経済・文化についての講義など充実した内容
- ・京劇、雑技鑑賞、太極拳などの楽しい内容もいっぱい！
- ・大学プログラムならではの中国企業見学や万里の長城などへのスタディトリップ
- ・北京大学生へのインタビューによるリサーチプロジェクトで、中国語会話の実践練習！

参加対象学年

09、08、07年度生

募集予定人数

30人（最少催行人数15人）

費用概算

約23万円（概算）

（航空運賃・授業料・保険料・寮費・食費・フィールドトリップ 等）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※自由旅行の際の現地交通費等は自己負担。

徴収方法：6月下旬に15万円、7月中旬に残金を所定の口座へ振込。

プログラム概要

中国語と中国の文化・歴史、現在の中国事情を学ぶプログラム。

北京大学は、清華大学と並ぶ中国屈指の名門校。1898年に設立され、現在40学部以上を擁し、約3万7千人の学生が在籍している。広大な校内には1950年代の中国独特の建築思想を表した建物が多く、その景観は大学の歴史と伝統を思わせる。

本プログラムは、北京大学対外交流中心が明学生向けに提供する特別集中プログラムで、内容は以下の通り。

中国語の授業

中国の政治経済・文化・民族問題・歴史や社会事情についての座学（日本語通訳付）

世界遺産や名所へのフィールドトリップ

スタディトリップ（抗日戦争記念館・中国企業視察）

アクティビティ：太極拳（毎朝）、雑技・京劇鑑賞

自由課題研究（中国語による北京大学生へのインタビュー、リサーチ）

自由課題成果発表（中国語によるプレゼンテーション）

中国語事情等の座学やフィールドトリップには通訳兼ガイドがつく。世界遺産を訪ねるフィールドトリップでは中国の歴史に触れ、また中国企業訪問では中国の今の姿を見ることが出来る。

期間中各自決めたテーマに沿って北京大学生へ中国語によるインタビューを実施し、結果をまとめ中国語でプレゼンテーションをする「リサーチプロジェクト」は中国の学生の実態や考え方を知らずだけでなく、中国語によるコミュニケーションのトレーニングにもなる。またこれをきっかけとした学生交流も期待できる。週末などの休日には各自で自由旅行が可能。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配不可）

生活について

北京大学内の勺園ホテルに滞在予定。宿舎は非常に衛生的。宿舎内にはランドリールームもある。基本的に2人1部屋のルームシェア（ルームメイトは明学生）。宿舎内に自炊の設備はないため、食事はすべて外食となる（キャンパス内の学生食堂・レストランで使えるミールクーポンが支給される）。

※北京大学では、学生はキャンパス内に居住するため、学内は日常生活のすべてがまかなえるよう衣食住すべての施設が整っている。また、防火の観点から学生寮にキッチンはなく、学生はキャンパス内の学生食堂やレストランで食事をしている。したがって、キャンパス内にはさまざまな種類のレストランが数多くあり、いずれも安価でありながらおいしく安全な料理を提供している。

事前研修

事前研修は実施しない（予定）

参考

北京大学のホームページ <http://www.pku.edu.cn>

参加者の声

※08・09年度は催行されなかったため、07年度参加者の声になります。

私たちはプログラムの一環として自由課題研究という時間を与えられた。そこでは北京大学の学生に対して、「日本に対する考え」や「現在の中国の経済発展における問題点」をテーマにアンケートを行った。それはもちろん彼らの日本や経済に対する意見を聞きたいということもあるが、私個人としては彼らとコミュニケーションを取り、対等でリアルな付き合いをすることを第一の目的としていた。

中国はここ数年でめまぐるしい発展を遂げた。そしてその勢いは今も衰えるどころか増すばかりだ。留学中に私が接した中国の人々の目には力があり、考えには常に向上心が備わっていた。私はそれが国力へとつながっているのだと感じた。日本にもかつての高度経済成長期においては、そのようなパワーを見ることができたのかもしれない。現在の私たちのこのゆとりある暮らしは良くも悪くも平和で安定した国になったことの証であるのかもしれない。しかし隣国中国をはじめ世界に目を向けた時、今の我々の甘えた姿を私は恥ずかしいと感じた。世界基準に照らして、今の自国の姿を客観的に見る謙虚さを日本は持つべきではないだろうか。そうした焦りを感じるほど中国にはパワーがみなぎっていた。もちろん、中国も接客態度や交通マナーの改善、格差や環境問題の改善などをはじめとする数え切れないほどの問題を抱えている。しかしそこには確かに日本人に欠けている力が存在しているのだ。

そのような中国人のリアルな姿に触れられたことが私にとってこの留学の一番の収穫であったし、旅行では得られない貴重な経験だった。

（政治学科）

フィールドトリップや中国語講座などからも中国の文化や歴史を学ぶことができ、非常にためになったが、実際に中国の人々と触れ合うことで見えてきたこともたくさんあった。これは私にとって大変貴重な財産になったと思う。

（法律学科）

- ・ 実用的なスペイン語会話
- ・ 英語とスペイン語によるスペインの歴史講義
- ・ 町の市場でのスペイン語実習や、美術館・世界遺産への課外授業など趣向を凝らしたプログラム
- ・ スペイン人学生による手厚いサポート
- ・ 週末を利用してアンダルシア、バルセロナへの旅行も可能

参加対象学年

09、08年度生

募集予定人数

32人（最少催行人数16人）

費用概算

約40万円（09年度実績）

（航空運賃・空港宿舎間交通費・保険料・授業料・フィールドトリップ費用・教材費・宿泊費）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行費用は自己負担。

徴収方法：11月中旬～12月下旬に所定の口座に振込。

プログラム概要

コミーリャス大学は、1980年創立のカトリック系私立大学。優秀な学生が多く集まるスペインでもトップクラスの大学。本学からは短期留学生のみ派遣している。

本プログラムはコミーリャス大学現代言語研究所（Institute of Modern Language）が明治学院大学生向けに提供する特別プログラムである。プログラムはマドリッド中心部にあるキャンパスで実施される。

スペイン語授業

英語とスペイン語によるスペイン文化・歴史講義

エル・エスコリアルでの課外授業

マドリッド市内フィールドトリップ（市場、プラド美術館、王宮、ソフィア王妃文化センター、フラメンコ鑑賞ほか）

週末を利用し、列車でバルセロナやアンダルシア地方等へ宿泊をとまなう自由旅行も可能（費用はすべて自己負担）。

通訳翻訳学科で日本語を第3専攻として学習している学生との交流が盛ん。留学期間中は日常生活において手厚くサポートしてくれる他、一緒に食事やサッカー観戦に行くなど毎年学生間で親交を深めている。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

マドリッド市内のアパートメントホテルに滞在する。基本的に2人1部屋のルームシェア（ルームメイトは明学生）。各部屋キッチンがついているので食事は自炊となる。

事前研修

11月～1月に約2回、基本的な日常会話や生活で役に立つ単語、言い回しなどについて復習する予定。

参加者の声

この様なプログラムを計画してくれて本当にありがとうございました。

留学はもの凄く楽しかったです。授業は毎日大変でしたが、日に日にスペイン語が上達していくのが分かり、嬉しく思い、もっと勉強しようと思います。

またいろいろ考えさせられました。貧富の差や衛生面、日本は恵まれている事や、コミュニケーションを取ることはとても楽しい事、将来のやりたい事についても大きく考えさせられました。

私は、これからももっといろいろな国に行って、その国の文化に直に触れてみたいと思いました。

その為にも、4月から私は英会話の塾に行くことにしました。留学の体験があったからこそ、この様なやる気が生まれたのだと思います。本当に留学して良かったです。ありがとうございました。

（社会学科 2年）

まずはこのスペイン留学に参加して本当に良かったと思います。自分は今までに海外に行ったことがなかったので色々不安もありましたが、出発前のオリエンテーションから現地の大学でのサポートもあり、充実した1ヶ月になりました。講師の方々に感謝したいです。

また週末の自由旅行もいい思い出になったと思います。歴史の教科書で見たアルハンブラ宮殿やサグラダファミリアをこの目で見られた事は自分にとって財産です。

今回の留学で1番心に残っているのは、スペイン人学生との交流です。短い期間ではありましたが、一緒にバルなどでお酒を飲んだりスペイン語で会話したりなど貴重な体験をする事ができました。またスペインに行く時は、彼らとバルに行きたいと思います。

（社会学科 2年）

スペインの文化、歴史、スペイン語と幅広く学べる事が出来て良かったと思う。大学、アパートメントホテルも快適で同部屋の友達と様々な事があったが強い絆が出来たと思う。

勉強ばかりではなく、フィールドトリップ、現地学生との交流もあり、文化歴史の授業で学んだものを生で見ることが出来て感動しました。現地の学生とは、すぐ打ち解けて私の様な未熟なスペイン語でも通じる事が出来、とても嬉しく思いました。

自分も日本の文化、習慣、食事などをスペイン語、英語、日本語を使って教える事ができて楽しかった。初めての共同生活、グループ活動でストレスも溜まったりしましたが周りの友人、スペイン学生への支え、日本に居る友人、家族の支えがあったからこそ事故もなく安全に楽しく学び、また旅行、遊びも出来たんだと強く思います。このプログラムに参加できて、今私は嬉しいです。

一生忘れる事のできない思い出であると共に、支えて下さった三角先生、CICEの方、友人、家族、みんなに感謝しています。

（国際経営学科 2年）

- ・ 日常会話力の向上を目指した英語学習
- ・ イギリス文化・歴史・社会制度についての英語講義でリスニング力をさらに向上！
- ・ バディとのフィールドトリップなど盛んな交流
- ・ 近隣住民との社会貢献活動共同参加による、英語の実地トレーニングとイギリス社会への理解
- ・ 週末を利用してのロンドンやケンブリッジへの自由旅行可能

参加対象学年

10、09、08年度生

募集予定人数

30人程度（予定）

費用概算

約32万円（09年度実績）

（航空運賃・空港宿舎間交通費・保険料・授業料・フィールドトリップ費用・教材費・宿泊費）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費・フィールドトリップ時入園料（テーマパーク・博物館・劇場など）及び自由旅行費用は自己負担。

徴収方法：12月中旬～下旬に所定の口座に振込。

プログラム概要

レスター大学は、ロンドンから車で北へ約2時間半の場所に位置する、英国で最も古い伝統を誇る大学のひとつ。教育・研究において国際的な名声を誇り、英国内でも質の良い教育を提供する大学と、定評がある。

大学のあるレスター市もおしゃれな住宅が立ち並び、公園の緑や遊歩道が美しい街である。町の中心部は非常に栄えており、ショッピングや食事を楽しむこともできる。

本プログラムはレスター大学のInternational Office が下記の内容を目的とし、明治学院大学生向けに特別に提供するプログラムである。

- ①定評のある英語教授メソッドにより英語の運用能力の向上を目指す。
- ②現地の地域コミュニティーやレスター大学の学生との交流を通じ、日常生活における英語コミュニケーションの実践経験を積むとともに、イギリスの風習、イギリス人の価値観などに触れる。
- ③各種講義やフィールドトリップを通じイギリス文化・歴史・社会事情を学び、イギリスについての理解を深める。

具体的なプログラム内容は以下の通り。

ENGLISH CLASS (毎日午前中3時間 週5日間)

日常会話・リスニング力の強化

午後のアクティビティに備えた英語表現や言い回しの習得

イギリスの文化、歴史、政治の講義（週2回 午後）

英語によるレクチャーでイギリスについての知識を深めながらリスニング力を強化

バディとの各種フィールドトリップ（週1回 午後）

近隣住民との社会奉仕活動参加（週1回 午後）

野鳥保護（巣箱作り）・地域の子供との交流・大学施設の大清掃など

デイトリップ（ロンドン・ストラットフォードなど）

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。（引率者なし。各自手配は不可）

生活について

レスター大学手配の宿舎に滞在する。5～6人毎にセクション分けされており、各セクションではキッチン、バス、トイレを共有する。

日常生活での生活費はおおむね1日10ポンド程度。寮の近くには大きなスーパーマーケットやレストランもあり、生活に不自由することはない。昼食は大学の学食で取り、その他の食事はほとんどが自炊である。近くのレストランでの外食は割高。

レスターの町は非常に栄えておりショッピングエリアも充実している。公設マーケットはヨーロッパ最大と言われている。また、イギリス各都市へ国鉄や長距離バスが通っており交通は至便。

参加者の声

初めての留学ということもあって、不安なこともたくさんあったけれども、一緒に行った14人と協力し合い、毎日ともに過ごす中でとても仲を深めることができた。直接的な交流を通して、コミュニケーション能力の向上につながった。色々上手くいかない中でどう対応するかという柔軟性や応用力、コミュニケーション能力、積極性、自主性、行動力を養うことができたと思う。

（国際学科 2年）

私は今回、このレスター短期留学プログラムに参加することができて、本当によかったと思う。はじめての留学ということで、不安もたくさんあったが、事前オリエンテーション等がしっかりしていたので、さほど困ることもなく準備が進められた。また、日本を離れてからは、一緒にプログラムに参加した15人で協力しあい、クリアさんをはじめとする、現地の人たちの温かいサポートに支えられ、無事に楽しく充実した3週間を過ごすことができた。今回の収穫のひとつに、様々な人たちとの出会いがあげられる。大切なことは、自分の気持ちを伝えようとする意思で、それさえあれば多少文法を間違っている、伝わる ということをも身をもって体験した。その他、ただ単に大学に通って勉強するのではなく、様々な場所に出かけ、イギリス文化に触れたり日本ではできない体験をすることができたのも貴重な思い出だ。今回の留学は私の人生に大きな影響を与えた。今後も機会があれば海外で学びたいと思った。

（国際学科 1年）

- ・ 時差の少ない夏のシドニーで活きた英語学習
- ・ オーストラリアで最も古いシドニー大学で歴史・政治・文化の講義
- ・ 少人数グループに分かれてのシドニー大学生とのディスカッション
- ・ 首都キャンベラ訪問やオリンピックスタジアム見学など多彩なツアー

参加対象学年

10、09、08年度生

募集予定人数

20～30人程度（予定）

費用概算

約49万円（09年度実績）

（航空運賃・空港宿泊間交通費・保険料・授業料・フィールドトリップ費用・教材費・宿泊費）

※参加人数や為替相場の変動により、金額が変わることがあります。

※食費及び自由旅行費用は自己負担。

徴収方法：12月中旬～下旬に所定の口座に振込。

プログラム概要

シドニー大学は、1850年創立のオーストラリアで一番最初に設立された最も古い大学。その教育や研究は高く評価されており、オーストラリアをリードする多くの政治家や文化人を輩出している。

本プログラムはシドニー大学のRIAP（Research Institute for Asia and the Pacific）が明治学院大学生向けに特別に提供するプログラムである。

具体的なプログラム内容は以下の通り。

①**English Language Communications（毎日午前中3時間）**

会話力を高めるための授業。初日にクラス分けテストがある。

CET（The University of Sydney's Centre for English Teaching）が3週間行う。

②**Lectures on Australian History, Politics and Culture（週1回 午後）**

3つの科目を1週間に1つずつ学ぶ。

a. Australia's Historical Past

オーストラリアの社会的・政治的・文化的歴史など

b. Politics and Practice in Australia

政策決定過程や代議制度の仕組みなど

c. Cultural Change in Australia

オーストラリア文化やアイデンティティの変遷など

③**Australian Discussion Groups（週1回 午後）**

少人数グループに分かれてシドニー大学の学生とオーストラリアの社会／文化／歴史に

ついてディスカッションする。

④Political and Cultural Site Visits (週1回 午後)

Historical walking tour of The Rocks、Guided tour of New South Wales Parliament House、Guided tour of Sydney Olympic Stadium、Day trip to Canberraなど。

留学先までの往復について

成田空港から現地までの往復については、全員一緒に明治学院大学が手配した飛行機及びバスにて移動。(引率者なし。各自手配は不可)

生活について

シドニー大学手配のゲストハウス (Alisha International Guest House) に滞在する。4人～6人部屋をルームシェア (ルームメイトは明学生) し、キッチン、バス、トイレはゲストハウスで共有する。プログラム期間中も他の観光客等が宿泊しているので、コモンルームで交流することもできる。

部屋はオートロックで、全員がそれぞれ鍵を持つ。大学までは徒歩5分 (教室棟までは10分)。

ハウスの玄関は管理人 (24時間) が監視していて、暗証番号で家に入るため、安全性は確保されている。

管理人の部屋の金庫に貴重品は預かることも可能となっている。

近隣には手頃な値段で食べることができるレストランがあり、寿司などの日本食の他に、多様なエスニック料理が楽しめる。大きなスーパーマーケットもあり、自炊のための買い出しも容易である。昼食は大学の学食で取り、その他の食事はほとんどが自炊である。

日常生活での生活費はおおむね1週間80～120オーストラリアドル程度。

シドニーは人口約400万を数えるオーストラリア随一の大都市だが、英国調の街並みや多くの緑豊かな公園があるため、リラックスした雰囲気がある。

※ 2009年度が初回であるため、「参加者の声」はありません。

MEMO

募 集 要 項

夏季短期 出願資格等一覧

英語圏 アメリカ・オランダ・イギリス

各大学とも以下の条件をすべて満たす者

—ホープカレッジ（アメリカ）／マーストヒルト大学（オランダ）—

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上
- ③学科別に指定されている右記の科目のうち、4単位以上を取得しかつ評価がB平均以上の者

—イーストアングリア大学（イギリス）—

- ①本学に在籍する09年度生の者。
- ②卒業要件単位のうち30単位以上を取得しているもの
- ③学科別に指定されている右記の科目のうち、4単位以上を取得しかつ評価がB平均以上の者

★各大学共通

英文：
Reading1(A/B) Conversation1(A/B)

国際：
専門外国語1・2・3・4

その他の学科：
英語コミュニケーション1(A/B)・2(A/B)

ドイツ

—ハンブルク大学—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上
- ③本学で開講するドイツ語科目のうち4単位以上を取得している者またはそれと同等以上のドイツ語力を有する者

フランス

—パリカトリック学院ILCF—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上
- ③本学で開講するフランス語科目のうち4単位以上を取得している者またはそれと同等以上のフランス語力を有する者

韓国

—崇實大学校—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上
- ③韓国語単位は不問だが、基礎知識を有することが望ましい。

タイ

—タマサート大学—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上

中国

—北京大学—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生、07年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：30単位以上／08年度生：60単位以上／07年度生：90単位以上
- ③本学で開講する中国語科目のうち4単位以上を取得している者またはそれと同等以上の中国語力を有する者

春季短期 出願資格等一覧

スペイン

—コミーリャス大学—

以下の条件をすべて満たす者

- ①本学に在籍する09年度生、08年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
09年度生：45単位以上／08年度生：75単位以上
- ③本学で開講するスペイン語科目のうち4単位以上を取得している者またはそれと同等以上のスペイン語力を有する者

英語圏 イギリス（レスター大学）・オーストラリア

各大学とも以下の条件をすべて満たす者

—レスター大学（イギリス）・シドニー大学（オーストラリア）—

- ①本学に在籍する10年度、09年度、08年度生。
- ②卒業要件単位のうち各学年ごとに定められた以下の単位数以上を取得している者
10年度生：15単位／09年度生：45単位以上／08年度生：75単位以上
- ③学年・学科別に指定されている右記の科目のうち、2単位以上を取得しかつ評価がB平均以上の者

【10年度生】 ★各大学共通

英文：Academic Reading A/ Listening and Speaking A

国際：専門外国語1・2

その他の学科：英語コミュニケーション1A・2A

【09・08年度生】 ★各大学共通

英文：Reading1 (A/B) Conversation1 (A/B)

国際：専門外国語1・2・3・4

その他の学科：

英語コミュニケーション1 (A/B)・2 (A/B)



単位認定と履修登録について

本学の短期プログラムは全て単位認定の対象となります。

参加者は与えられた課題をこなし、一定の成績を修めることによって認定対象科目の所定の単位が与えられます。認定対象科目は、選考試験に合格し参加が決定した時点で、教務課が自動的に履修登録を行います。ただし、イーストアングリアのプログラムに限っては、参加者は出願時に予め認定対象科目の履修登録を自分で済ませておく必要があります。

	履修登録科目	認定対象科目
ホープカレッジ (アメリカ)	不要	アメリカ研究 (短期留学) 4単位 ※1
マーストリヒト (オランダ)	不要	ヨーロッパ研究 (短期留学) 4単位 ※1
イーストアングリア (イギリス)	英文学科	左記履修科目のうち 秋学期分の2単位を認定 ※2
	Reading 2 (A/B) Conversation 2 (A/B) の4単位	
	国際学科	
	専門外国語 5・6 の4単位	
	その他の学科	
	英語研究 1・2の各AB のうち4単位 ※3	
ハンブルク (ドイツ)	不要	ドイツ研究 (短期留学) 4単位 ※1
パリカトリック学院ILCF (フランス)	不要	フランス研究 (短期留学) 4単位 ※1
崇實 (韓国)	不要	韓国研究 (短期留学) 4単位 ※1
タマサート (タイ)	不要	タイ研究 (短期留学) 4単位 ※1
北京 (中国)	不要	中国研究 (短期留学) 4単位 ※1
コミーリャス (スペイン)	不要	スペイン研究 (短期留学) 4単位 ※1
レスター (イギリス)	不要	イギリス研究 (短期留学) 4単位 ※1
シドニー (オーストラリア)	不要	オセアニア研究 (短期留学) 4単位 ※1

※1 卒業要件単位ではあるが、年間履修制限には含まれない。

※2 春学期に取得すべき単位を取得できなかった場合は、夏季短期留学参加による単位認定は秋学期分ではなく、春学期分として認定される。この場合、秋学期は該当する授業に出席し単位を取得する必要がある。

※3 抽選に外れて英語研究が履修できなかった場合は、必ず教務課へ申し出ること。別途対応にてプログラムへの参加可能。

出願から合否発表まで

出願時期	【夏 季】		【春 季】	
出願期間	2010年4月26日(月)～2010年5月7日(金)		2010年10月4日(月)～2010年10月8日(金)	
出願先	英語圏 タマサート	左記以外	英語圏	コミーリヤス
書類審査結果 発表	2010年5月14日(金)		2010年10月15日(金)	
選考試験	選考試験（筆記／面接試験）は行いません。本学で実施したTOEFL-ITPのスコア（出願時に提出）により選考します。		試験日	
			2010年5月22日(土)	
			試験場	
			書類審査結果発表時に告知します。	
選考試験（筆記／面接試験）は行いません。本学で実施したTOEFL-ITPのスコア（出願時に提出）により選考します。		試験科目		
		スンシル： 韓国語(朝鮮語)・面接 ハンブルク： ドイツ語・面接 パリカトリックILCF： フランス語 北京： 中国語・面接		
		試験日		
		2010年10月23日(土)		
試験場		書類審査結果発表時に告知します。		
		試験科目		
		スペイン語		
		試験科目		
合否発表	発表日時			
	2010年5月14日(金) 午後1時	2010年5月27日(木) 午後1時	2010年10月15日(金) 午後1時	2010年10月28日(木) 午後1時
	発表方法			
ポートヘボンならびにCICE掲示板で発表します。				

出 願 書 類

- ①願書 ②誓約書／健康状態申告書 ③成績証明書 ④TOEFL-ITPスコアレポートのコピー（英語圏のみ）／A4サイズ
①②は国際交流センターのホームページよりダウンロードしてください
http://www.meijigakuin.ac.jp/office/cice/short_outline.html

英語圏（短期留学）選考方法について

英語圏プログラムは、従来の選考試験ではなく、本学で実施したTOEFL-ITPのスコアにより参加者を選考することになりました。06年度以降入学の学生（※06年度国際学部生を除く）は必ず1度はTOEFL-ITPを受験し、スコアレポートを受け取っているはず。現在スコアレポートを所持していない学生で出願を希望する場合は、再発行の手続きをしてください。
なお、ITPを受験しなかった学生は、出願することが出来ませんので注意してください。

●TOEFL-ITPのスコア再発行手続きについて●

再発行を希望する学生は、下記の事務所へ行き、英語圏留学でITPのスコアが必要な旨を申し出て、申請手続きをしてください。所属する学部学科によって申請先が異なりますので注意してください。

また、再発行受付期間は出願時期によって異なります。決定次第ポートヘボンにて告知します。

【英文学科生】 英文学科共同研究室（横浜校舎1号館2階／白金校舎ヘボン5階）

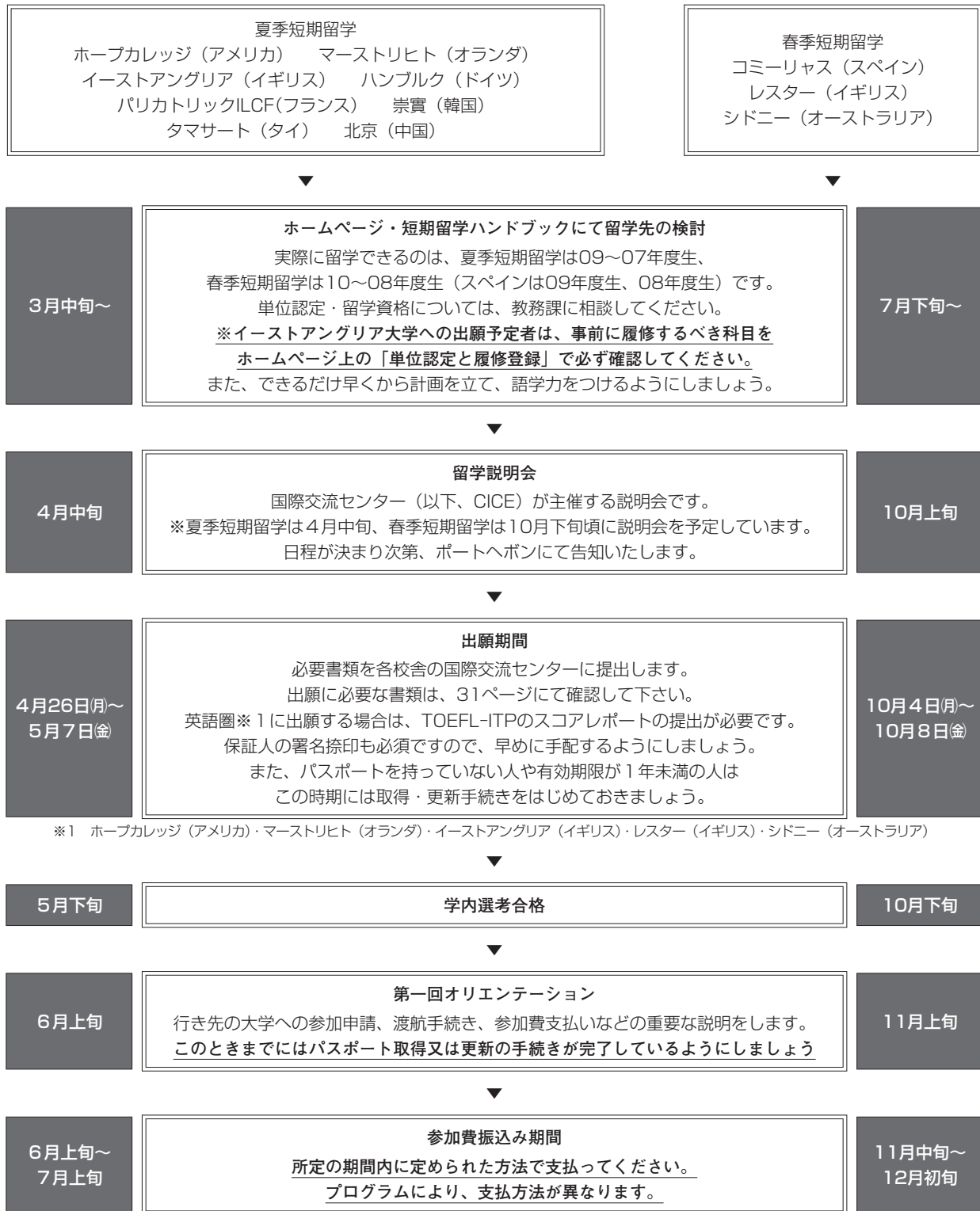
【国際学科生】 国際学部事務室（横浜校舎8号館2階）

【英文・国際学科以外の学生】 国際交流センター（横浜校舎1号館／白金校舎本館）

※国際交流センターで申請した場合、スコアデータが自動的に出願書類に反映されます。

ITPスコアレポートが申請者に再発行されるわけではありません。

出願から帰国までの流れ



※1 ホープカレッジ（アメリカ）・マーストリヒト（オランダ）・イーストアングリア（イギリス）・レスター（イギリス）・シドニー（オーストラリア）

MEMO

2010年度 短期留学ハンドブック

2010年3月30日発行

■ 企画・編集

明治学院大学 国際交流センター (CICE)

MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

Center for International Cooperation in Education

■ 発 行

明治学院大学 国際交流センター (CICE)

白 金 CICE

〒108-8636

東京都港区白金台1-2-37

Tel : (03) 5421-5423

Fax : (03) 5421-5458

E-Mail : cicet@mguad.meijigakuin.ac.jp

横 浜 CICE

〒244-8539

神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

Tel : (045) 863-2190

Fax : (045) 863-2191

E-Mail : cicey@mguad.meijigakuin.ac.jp

